

令和5年度 3学期

東大阪市標準学力調査 考察資料

小学校

調査目的

● 東大阪市内の小学校児童の学習状況を調査し、学習指導要領に定められた学習内容の定着状況を把握するとともに、今後の学力向上および指導の改善に資する。

調査内容

● 調査目的に基づき、学習指導要領に定める内容について、基礎・基本および活用の力を測る問題で構成した。

調査対象

- 東大阪市内の小学校の3・4・5・6年生の児童
- 調査対象教科は、国語・算数

◆ 用語について

正答率

各設問の正答率は、その設問に正答した児童・生徒の割合を示したものである。また、教科総合、領域別、観点別等の正答率は、対象設問中の正答率の平均を表す。

標準スコア

全国平均の正答率を50とした時の換算値。

目標値（目標標準評価法式のみ）

学習指導要領に示された内容について標準的な時間をかけて学んだ場合、設問ごとに正答できることを期待した自動・生徒の割合。

3年 国語

「主体的に学習に取り組む態度」の定着に課題が残る

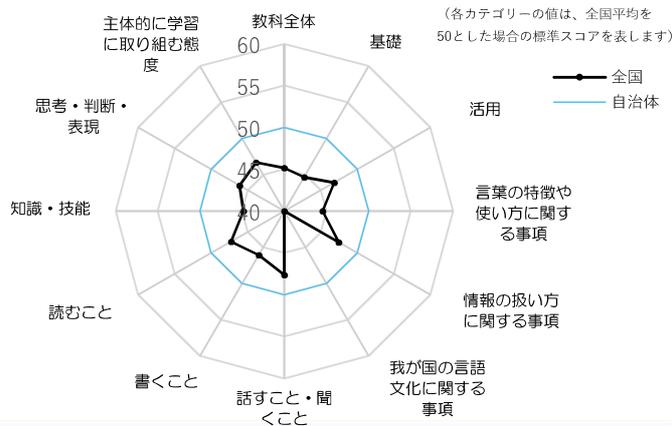
正答率一覧

単位 (%)		★=目標値	目標値	自治体	(%)
教科全体			67.6	58.2	★
基礎			73.8	64.8	★
活用			54.4	44.1	★
領域別	言葉の特徴や使い方に関する事項		75.5	64.8	★
	情報の扱い方に関する事項		53.3	41.1	★
	我が国の言語文化に関する事項				
	話すこと・聞くこと		59.0	50.5	★
観点別	書くこと		60.0	46.0	★
	読むこと		64.2	57.2	★
	知識・技能		70.4	59.4	★
	思考・判断・表現		61.3	52.0	★
	主体的に学習に取り組む態度		55.0	43.4	★

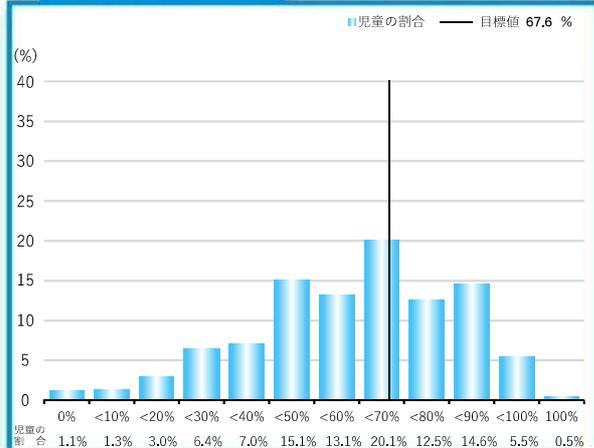
分析 コメント

- 小3国語は、教科全体の正答率が58.2%で、目標値を9.4ポイント下回った。
- 観点別に正答率を見ると、すべての項目で目標値に届かなかった。中でも、「主体的に学習に取り組む態度」が43.4%で、目標値を11.6ポイント下回った。

カテゴリー間の比較



正答率度数分布



★ 課題となる小問 ★

せつ明文の内よみを読み取る

大問5(3)

<ねらい> 情報と情報との関係について理解し、中心となる語や文を見つけて要約している。

目標値 40.0 % 正答率 14.7 % 差▲25.3 ポイント

指導のポイント 文章のほぼ全体の内容が整理されているので、文章の内容と整理された内容を比較していけば、本問の空欄に何が入るのかを理解することができる。整理された内容を見ると、「星を見えにくくしているもの」として「よごれた空気」と空欄に入る言葉の二つが挙げられ、それぞれが冬になるとどうなるかが矢印で示されている。説明的な文章の授業では、このような形式で情報の整理が行われることが多い。その際に全てを教師が整理するのではなく、教材によっては児童が整理させてみることで、情報整理の仕方を身に付けさせたい。

言葉の学習

大問3(3)

<ねらい> ローマ字で表記されたものを正しく読んでいる。

目標値 60.0 % 正答率 40.5 % 差▲19.5 ポイント

指導のポイント 身の回りでローマ字表記されているものは、地名や駅名、住居表示など数多くある。国語の授業以外の時間も活用して、実際にローマ字表記されているものを多く読む経験を積ませることが大切である。特に、つまる音の表記は間違えやすいので、丁寧に指導したい。少し表記が異なる点もあるが、パソコンを使う学習でローマ字に慣れさせていくことも有効であろう。

3年算数

「主体的に学習に取り組む態度」の定着に課題が残る

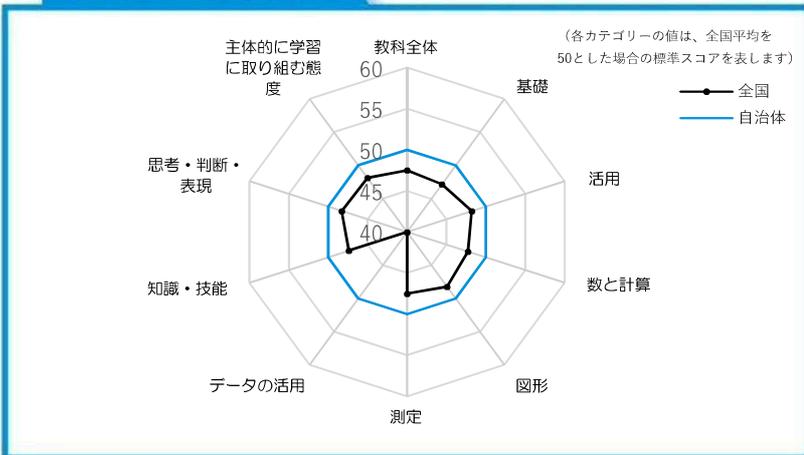
正答率一覧

		目標値	自治体	(%)
教科全体		68.4	64.4	★
基礎		76.6	72.3	★
活用		56.5	52.7	★
領域別	数と計算	68.1	64.4	★
	図形	65.0	60.4	★
	測定	71.4	66.6	★
	データの活用			
観点別	知識・技能	73.6	69.7	★
	思考・判断・表現	50.0	45.3	★
	主体的に学習に取り組む態度	56.1	51.0	★

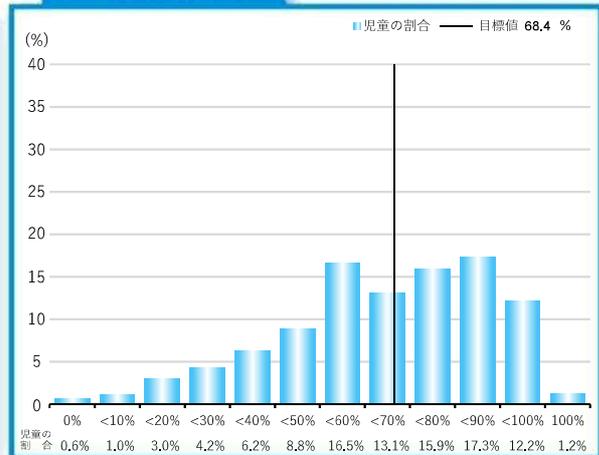
分析コメント

- 小3算数は、教科全体の正答率が64.4%
- で、目標値を4.0ポイント下回った。
- 観点別に正答率を見ると、すべての項目で
- 目標値に届かなかった。中でも、「主体的に学習に取り組む態度」が51.0%で、目標
- 値を5.1ポイント下回った。

カテゴリー間の比較



正答率度数分布



★課題となる小問★

たし算・ひき算

大問3(6)

<ねらい> 4けた-3けた=3けた(波及的繰り下がりあり)の計算ができる。

目標値 75.0 % 正答率 60.1 % 差▲14.9ポイント

指導のポイント 減法の計算問題では、計算するけた数が増えると、位がずれる、繰り下がりがあったことを忘れて計算してしまうなどの間違いが起きやすい。方眼のあるノートを用いて、繰り下がったときには被減数を斜め線で消し、上に繰り下がった後の数を書くなどの工夫をさせることで、一の位から順番に計算していけば、必ず正しい答えを導き出せることを実感させたい。

わり算

大問8(1)

<ねらい> 包含除の文章問題を図に表している。

目標値 70.0 % 正答率 56.6 % 差▲13.4ポイント

指導のポイント 本問の $8 \div 2$ の式から、等分除と包含除の問題が予想される。問題の場面では、8本の鉛筆を2人で分けるか、2本ずつ分けるかで、等分除と包含除のどちらの問題になるかを判断することになる。この2つの問題の違いを説明するには、1人が4本になるか、4人に配ることができるかを図に表すことが大切である。図に表すことで、2つの問題の違いを明確に理解することができる。

4年 国語

「主体的に学習に取り組む態度」の定着に課題が残る

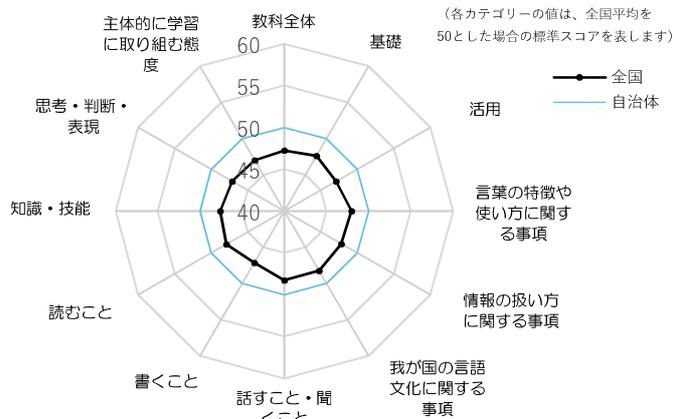
正答率一覧

		目標値	自治体	(%)
教科全体		63.8	58.4	★
基礎		68.5	63.6	★
活用		55.0	48.5	★
領域別	言葉の特徴や使い方に関する事項	72.0	68.2	★
	情報の扱い方に関する事項	46.7	34.4	★
	我が国の言語文化に関する事項	80.0	84.1	★
	話すこと・聞くこと	55.0	48.0	★
	書くこと	53.8	34.8	★
観点別	読むこと	60.8	57.8	★
	知識・技能	67.1	62.1	★
	思考・判断・表現	57.0	48.4	★
	主体的に学習に取り組む態度	50.0	34.9	★

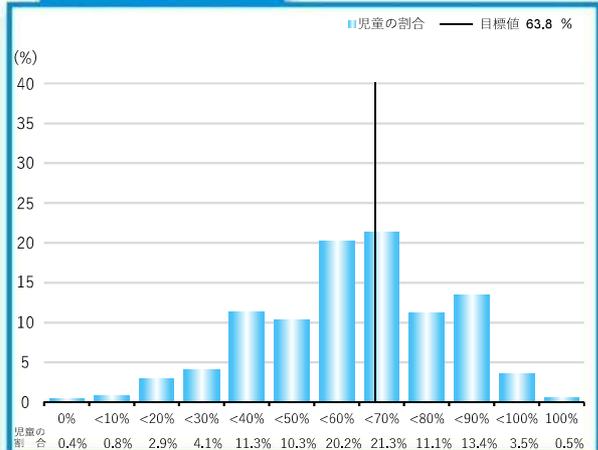
分析 コメント

- 小4国語は、教科全体の正答率が58.4%
- で、目標値を5.4ポイント下回った。
- 観点別に正答率を見ると、すべての項目で
- 目標値に届かなかった。中でも、「主体的
- に学習に取り組む態度」が34.9%で、目標
- 値を15.1ポイント下回った。

カテゴリ間の比較



正答率度数分布



★課題となる小問★

文章を書く

大問7

<ねらい> 段落の役割について理解し、2段落構成で文章を書いている。

目標値 55.0 % 正答率 31.4 % 差 ▲23.6 ポイント

指導のポイント 文章を2段落構成で書くことができるかを見る問題である。「段落に分ける」ということを理解し、実際に段落分けができることが求められる。段落分けができなかった児童に対しては、まず教科書の教材文を示して、段落とはどういうものかを教える必要がある。その上で、意図的に段落のない短い文章を示し、話題の切り替わる場所で段落分けをさせると、段落意識をもたせることができる。

調べて分かったことを発表する

大問6(2)

<ねらい> 情報と情報との関係について理解し、理由や事例などを挙げながら話している。

目標値 40.0 % 正答率 19.6 % 差 ▲20.4 ポイント

指導のポイント 「大原さん」がゆであずきを薦める理由は、【調べて分かったこと】の「食べ方」に二つ述べられている。これを基にして、空欄に整理して書けばよい。ここでは、あんこは「たくさん食べると、さとうをとりすぎてしまう」という文言を、ゆであずきは「たくさん食べても、さとうをとりすぎない」と書き直すことがポイントになる。情報と情報との関係において、意見とその理由や根拠との関係は、基本的なものである。授業の中で、考えを求められたときに、意見だけでなく理由や根拠もセットで述べられるようにしていきたい。

4年算数

「主体的に学習に取り組む態度」の定着に課題が残る

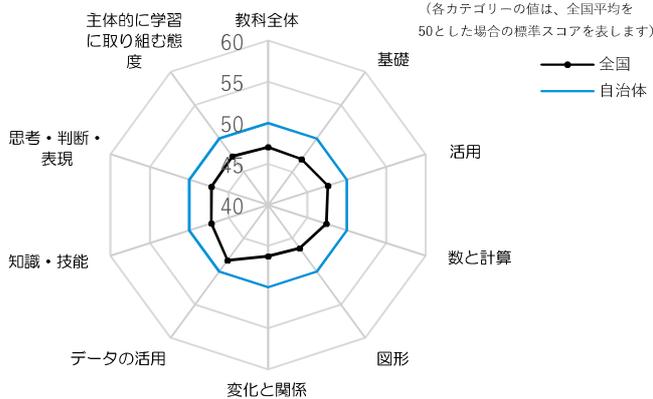
正答率一覧

		目標値	自治体	(%)
教科全体		64.2	57.9	★
基礎		68.9	62.3	★
活用		56.7	51.0	★
領域別	数と計算	65.9	61.9	★
	図形	65.0	52.4	★
	変化と関係	71.7	63.2	★
	データの活用	50.0	39.8	★
観点別	知識・技能	69.0	63.7	★
	思考・判断・表現	54.0	45.8	★
	主体的に学習に取り組む態度	49.0	37.5	★

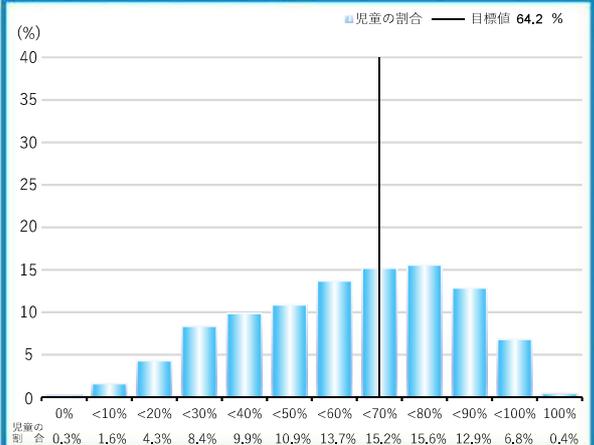
分析コメント

- 小4算数は、教科全体の正答率が57.9%
- で、目標値を6.3ポイント下回った。
- 観点別に正答率を見ると、すべての項目で
- 目標値に届かなかった。中でも、「主体的に学習に取り組む態度」が37.5%で、目標
- 値を11.5ポイント下回った。

カテゴリ間の比較



正答率度数分布



★課題となる小問★

垂直・平行と四角形

大問13(2)

<ねらい> 四角形の対角線の性質を理解している。

目標値 50.0 % 正答率 28.6 % 差 ▲21.4 ポイント

指導のポイント 正方形は、対角線が直交することから、ひし形と同じ性質をもっている図形と捉え直すことができる。さらに、対角線の長さや位置関係に着目すると、正方形と長方形の関係を捉え直すことができる。また、対角線の性質を用いて、四角形を作図することもできる。このように、対角線という視点から、既習の図形について振り返り、統合的に捉えられるようにすることが大切である。

小数

大問7

<ねらい> 示された考えをもとに、数の相対的な大きさを使って、小数の減法を整数の減法に直している。

目標値 40.0 % 正答率 19.8 % 差 ▲20.2 ポイント

指導のポイント 相対的な大きさは、ある位の単位に着目して、そのいくつ分と見る見方である。例えば、6.57は0.01が657個集まった数であるという見方である。相対的な大きさを使うと、小数の加減は整数と同じ原理でできる。なお、4.2は0.01が420個集まった数であるという誤答が考えられる。小数第3位まである位取り記数表などを活用して、4.2は0.01が420個集まった数であることを理解させることが大切である。

5年 国語

「主体的に学習に取り組む態度」の定着に課題が残る

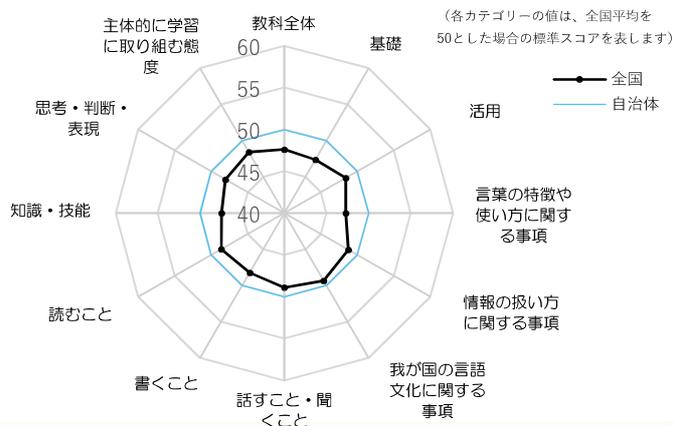
正答率一覧

単位 (%)		★=目標値	目標値	自治体	(%)
教科全体			68.3	65.4	★
基礎			72.8	70.8	★
活用			58.1	53.4	★
領域別	言葉の特徴や使い方に関する事項		72.7	70.2	★
	情報の扱い方に関する事項		40.0	32.4	★
	我が国の言語文化に関する事項		55.0	47.3	★
	話すこと・聞くこと		65.0	66.5	★
	書くこと		66.7	58.0	★
観点別	読むこと		65.8	64.1	★
	知識・技能		66.8	63.1	★
	思考・判断・表現		66.0	62.2	★
	主体的に学習に取り組む態度		62.0	54.5	★

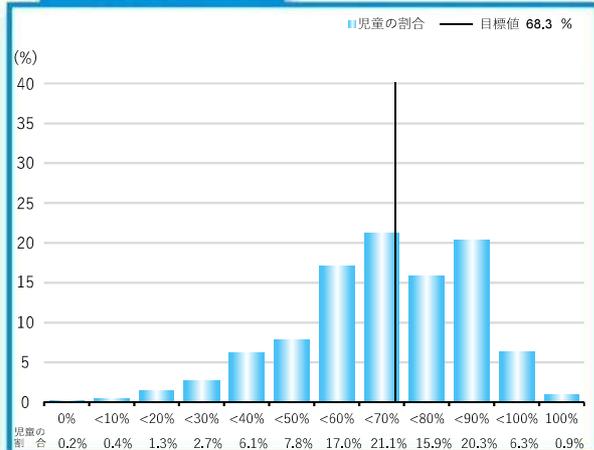
分析 コメント

- 小5国語は、教科全体の正答率が65.4%
- で、目標値を2.9ポイント下回った。
- 観点別に正答率を見ると、すべての項目で
- 目標値に届かなかった。中でも、「主体的
- に学習に取り組む態度」が54.5%で、目標
- 値を7.5ポイント下回った。

カテゴリー間の比較



正答率度数分布



★ 課題となる小問 ★

文章を書く

大問7

<ねらい> 段落の役割について理解し、2段落構成で文章を書いている。

目標値 70.0 % 正答率 50.1 % 差▲19.9 ポイント

指導のポイント 文章を2段落構成で書くことができるかを見る問題であり、第一段落に「二つの案のどちらに賛成するか」、第二段落に「その案がよいと思う理由や、ほかの案を選ばない理由」を具体的に書くことが求められている。作文に当たっては、記述に入る前に、まず文章の組み立てを考えさせたり、必要な材料を十分に集めさせたりすることが大切である。「段落」の定義を正しく理解させた上で、自分の考えを分かりやすく効果的に書いたり、意見と理由を区別して書いたりする力を養わせていきたい。

言葉の学習

大問3(2)

<ねらい> 連用修飾語について理解している。

目標値 35.0 % 正答率 20.2 % 差▲14.8 ポイント

指導のポイント 修飾語と被修飾語の関係を理解しているかどうかを問う問題であり、「時間まで」が修飾している言葉を見つける必要がある。「時間まで」のような、連用修飾語になる副詞句は、被修飾語の直前に置くこともできるが、比較的自由的な位置に置くことができる。この文中での位置の自由さが原因で、意味が明確でない文になることもあるが、そうした日本語の特徴についても押さえるように指導していきたい。

5年算数

「主体的に学習に取り組む態度」の定着に課題が残る

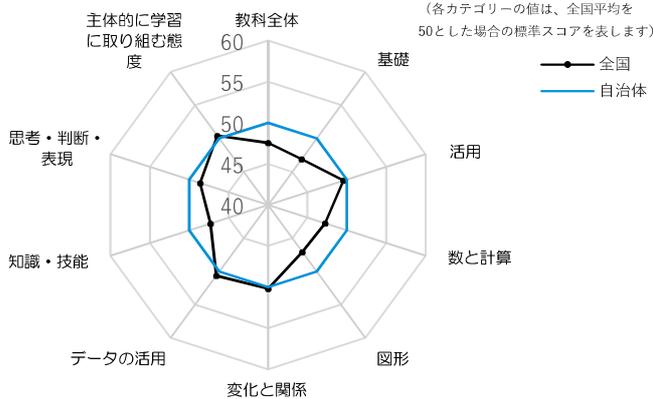
正答率一覧

		目標値	自治体	(%)
教科全体		60.6	52.9	★
基礎		66.6	59.2	★
活用		46.1	37.4	★
領域別	数と計算	62.1	56.2	★
	図形	68.3	56.5	★
	変化と関係	51.7	39.7	★
	データの活用	45.0	37.3	★
観点別	知識・技能	67.5	59.8	★
	思考・判断・表現	48.2	40.3	★
	主体的に学習に取り組む態度	48.3	38.5	★

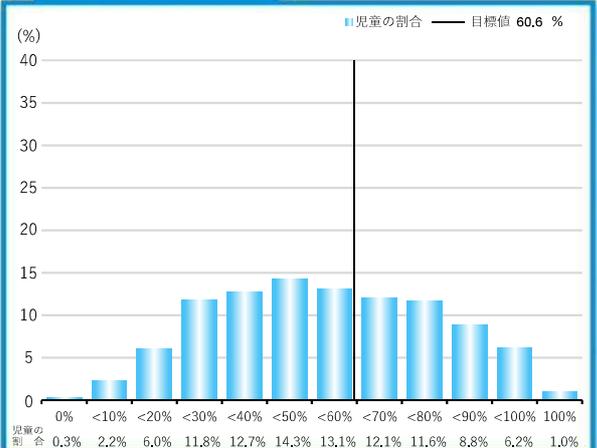
分析コメント

- 小5算数は、教科全体の正答率が52.9%
- で、目標値を7.7ポイント下回った。
- 観点別に正答率を見ると、すべての項目で
- 目標値に届かなかった。中でも、「主体的に学習に取り組む態度」が38.5%で、目標
- 値を9.8ポイント下回った。

カテゴリ間の比較



正答率度数分布



★課題となる小問★

体積

大問10(1)

<ねらい> 立方体の体積を求める式を理解している。

目標値 75.0 % 正答率 52.6 % 差▲22.4 ポイント

指導のポイント 直方体や立方体の体積については、1辺が1cmの立方体の積み木を使って、いくつ分になるかを調べる活動などを通して、その意味や単位について考えさせることが大切である。その上で、直方体や立方体の体積を求める公式の意味を理解させたい。単に公式を暗記させるのではなく、面積の求め方に立ち戻った指導を行う必要がある。

単位量あたりの大きさ、比例

大問15(2)

<ねらい> 単位量あたりの大きさから、大人の人数を求めることができる。

目標値 40.0 % 正答率 22.8 % 差▲17.2 ポイント

指導のポイント 本問は、まず子供と大人を合わせた全員の人数を求め、次にその数から子供の人数をひいて大人の人数を求めるといように、解決するために2段階が必要な問題である。まず、大広間の広さと1m²当たりの人数から、大広間に集まった人数を求める。数直線に数量の関係を表し、立式できるようにさせたい。子供の人数は分かっているので、全員の人数から子供の人数をひけば大人の人数を求めることができる。解決するにはどうしたらよいか、見通しをもたせることが大切である。

6年 国語

「知識・技能」の定着に課題が残る

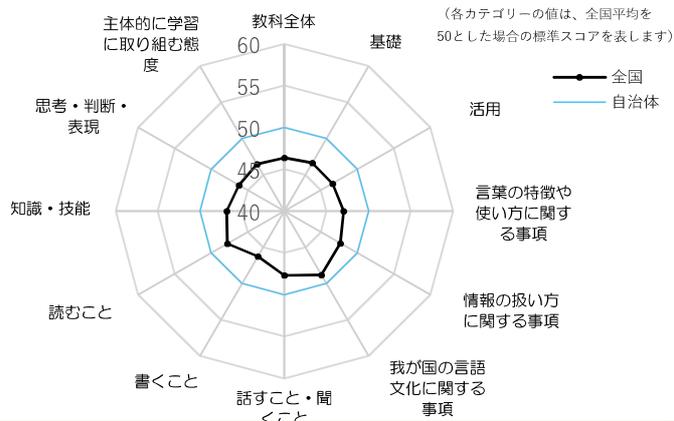
正答率一覧

(単位%) ★=目標値		目標値	自治体	(%)
教科全体		64.0	59.4	★
基礎		66.2	59.8	★
活用		60.0	58.7	★
領域別	言葉の特徴や使い方に関する事項	65.0	56.3	★
	情報の扱い方に関する事項	45.0	46.1	★
	我が国の言語文化に関する事項	70.0	67.4	★
	話すこと・聞くこと	66.7	69.2	★
	書くこと	63.3	55.4	★
観点別	読むこと	61.7	62.2	★
	知識・技能	62.5	55.6	★
	思考・判断・表現	63.3	60.9	★
	主体的に学習に取り組む態度	56.0	50.4	★

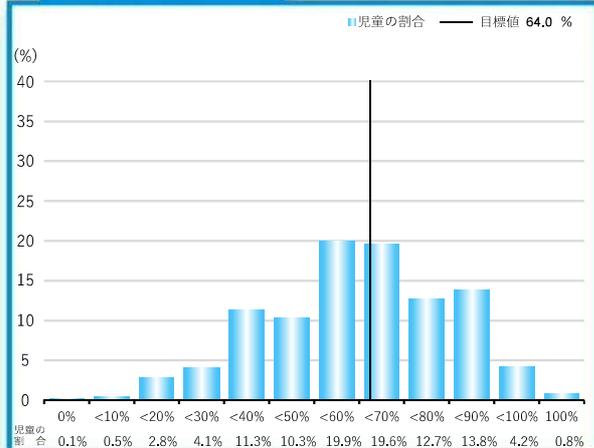
分析 コメント

- 小6国語は、教科全体の正答率が59.4%
- で、目標値を4.6ポイント下回った。
- 観点別に正答率を見ると、すべての項目で
- 目標値に届かなかった。中でも、「知識・
- 技能」が55.6%で、目標値を6.9ポイント
- 下回った。

カテゴリー間の比較



正答率度数分布



★課題となる小問★

言葉の学習

大問3(3)

<ねらい> 敬語について理解し、正しく使っている。

目標値 40.0 % 正答率 20.2 % 差 ▲19.8 ポイント

指導のポイント 普段の生活では、使い方が曖昧なまま敬語を使用している児童も多い。尊敬語、謙譲語、丁寧語については、相手や場面に応じて適切に使うことに慣れるよう、日常の言語生活に生きる指導をする必要がある。また、日頃から敬語を適切に使った言葉遣いを心がけるよう指導し、コミュニケーションを円滑に行えるようにさせたい。

文章を書く

大問7

<ねらい> 段落の役割について理解し、2段落構成で文章を書いている。

目標値 70.0 % 正答率 54.9 % 差 ▲15.1 ポイント

指導のポイント 文章を書く問題では、「何を」「どのように」書くのかを理解した上で書くことが大切である。本問では、第一段落で、二つの案のうち、どちらに賛成か、及びその理由を書き、第二段落で、予想される反論と、それに対する自分の考えを具体的に書く。重要なのは、意見及びその理由と、反論及びそれに対する自分の考えを二つの段落に分けて書くことである。日頃から、自分の考えや感想をもつ訓練と、200字程度の短い文章を書きまとめるなどの伝え合う力を高める指導を行いたい。

6年算数

「知識・技能」の定着に課題が残る

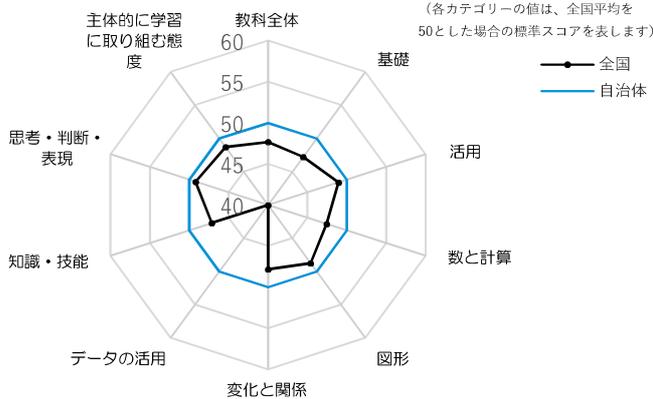
正答率一覧

		目標値	自治体	(%)
教科全体		71.1	69.2	★
基礎		76.4	73.6	★
活用		59.5	59.5	★
領域別	数と計算	72.1	68.3	★
	図形	72.7	74.7	★
	変化と関係	62.5	57.7	★
	データの活用			
観点別	知識・技能	76.7	74.5	★
	思考・判断・表現	56.7	55.5	★
	主体的に学習に取り組む態度	59.4	58.4	★

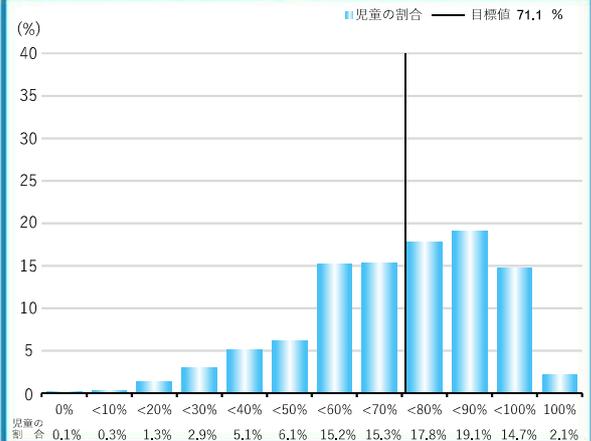
分析コメント

- 小6算数は、教科全体の正答率が69.2%
- で、目標値を1.9ポイント下回った。
- 観点別に正答率を見ると、すべての項目で
- 目標値に届かなかった。中でも、「知識・
- 技能」が74.5%で、目標値を2.2ポイント
- 下回った。

カテゴリー間の比較



正答率度数分布



★課題となる小問★

分数のかけ算・わり算

大問14(2)

<ねらい> 分数のわり算を、被除数と除数に同じ数をかけて、整数のわり算にして計算する方法を説明している。

目標値 30.0 % 正答率 14.9 % 差▲15.1ポイント

指導のポイント 小数の除法の場合、除数と被除数を10倍や100倍にして、整数の計算に帰着させた。これは、除数と被除数に同じ数をかけても、同じ数でわっても、商は変わらないという除法の性質を用いている。分数の除法の場合は、分母をはらって整数にする考え方が必要になる。分母が3の場合、3あるいは3の倍数をかけることで、整数の除法に帰着させることができることを理解させたい。逆数をかけると除数が1になり、分数の除法が分数の乗法の計算になる。除法の性質を活用することで、既習の計算に変化するよさを味わわせることが大切である。

分数のかけ算・わり算

大問4(2)

<ねらい> 比較量、基準量が分数の場合において、比較量が基準量の何倍になるかを求める式を選ぶことができる。

目標値 60.0 % 正答率 47.1 % 差▲12.9ポイント

指導のポイント 比較量と基準量の関係は、それらが小数や分数の場合でも、整数の場合と同じであることを確認させたい。数が分数になったとたんに、乗法か除法か、除法だとすると除数と被除数を取り違える児童がいる。テープ図や数直線を用いて、数量の関係を整理することで分かりやすくなる。テープ図や数直線は、整数の学習のときから活用する習慣を身に付けておくと、小数や分数の場合でも、それと照らし合わせることで、数量の関係が捉えやすくなる。